

『これからの社会をたくましく生きる子どもたちの育成』

あま市立美和小学校

1 目的

美和小学校では、「力いっぱい考える子」「笑顔いっぱい思いやりのある子」「元気いっぱいがんばる子」を目指す児童像としています。これらの力を育むために以下のような手立てとともに、教育活動を進めています。

- (1) 「己書体験」を通し、オリジナルの文字やイラストを描くことにより、自分の思いや夢を実現しようとする意欲を育てます。
- (2) 「情報モラル教室」を通し、インターネットを正しく活用し、犯罪やトラブルに巻き込まれない力を育てます。
- (3) 「デジタルシティズンシップ教室」を通し、情報社会に正しく、責任をもって生活するデジタル市民の育成に努めます。
- (4) 「いのちの授業」を通し、生まれたことやこれまで育ってきた自分自身を振り返り、自他を大切にする心や自尊心を育てます。

2 内容 「考える子」「思いやりのある子」「がんばる子」を育む事業

(1) 己書体験

それぞれの思いを漢字一文字に込めて、はがき大の用紙にのびのびとイラストを交えながら描きました。普段使い慣れない筆ペンやパステルのよさを最大限に利用し制作しました。児童は満足げな表情を浮かべ、世界に一つだけの作品を見せ合っていました。



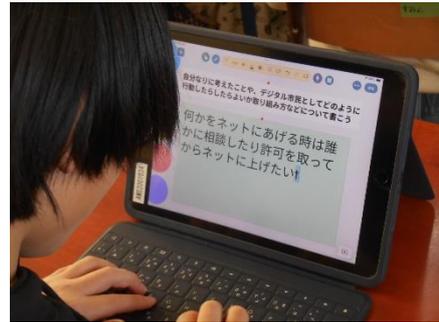
【児童の作品】

(2) 情報モラル教室

これからの時代を担う子どもたちには、情報教育が不可欠です。高学年になると携帯電話を使用する児童も増え、正しい使い方を身に付ける必要があります。そこで、情報モラル教室では自分を律して正しい判断をする知識と知恵をつけさせたいと考えました。また本年度はより効果の高い時期に行おうと考え、長期休暇前の7月と12月の2回に渡って5・6年生を対象に実施しました。第1回目には、利用時間を振り返ることで、毎日の生活の時間の使い方について見直し、依存を防ぐ方法について考えました。第2回目には、SNSの使用に焦点を当て、相手の気持ちを思いやり、自分自身の情報を守ったりするために大切なことを学習しました。トラブルを防ぎ、自己防衛できる力をつけ、将来、社会で必要とされる正しい判断力と相手を思いやる豊かな心の育成に努めました。

(3) デジタルシティズンシップ教室

教育活動の中で一人一台タブレット端末の活用が進み、授業でも家庭でも使用時間が増えています。デジタル機器に親しみ始める3・4年生を対象にデジタルシティズンシップ教室を実施することで、タブレット端末はもちろんのこと、スマートフォン、コンピュータなどのデジタル機器を使用する上での社会的責任や、よりよい活用方法、時間の使い方について学び、デジタル市民としての自覚をもって、社会で貢献していく人材の育成に努めました。



【デジタル市民として
心がけることは？】

(4) いのちの授業

5・6年生を対象に、助産師の方を講師としてお招きし、人が受精してから生まれるまでの過程を講話と体験を通し学びました。実物大の赤ちゃんの人形を抱いたり、出産体験をしたりすることにより、命の重さや大切さについて体験を通して学ぶことができました。また、保護者の皆様にも参加していただき、生きていることのすばらしさを改めて考えるよい機会だったとの感想をいただきました。



【出産体験の様子】

3 評価

これからの社会を生き抜くためには、予想不可能な問題に対処していくたくましさが必要です。児童一人一人が主体的にあらゆる事柄に取り組み、自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢を学校教育で育成する必要があると考えています。外部講師による授業を通し、さまざまな立場の人と触れ合い、その人からしか学ぶことのできない貴重な機会を設けることができました。自尊心をもつこと、デジタル社会でのマナーを守って正しく生きること、命の重さを改めて知り生きることの大切さを改めて実感する今回の実践により、未来の社会を担うたくましい人間形成に向けた実践となりました。

4 課題

近年、生成AIの技術進化が急激に加速するとともに、それを活用したサービスがあらゆる分野に普及しています。こうした社会を生き抜く子どもたちに情報モラルを守りつつ、積極的に社会活動に参画していく力を身に付けさせることは学校教育の役割の一つでもあります。また、人と人との関わりを大切に、自尊感情を高めていくこともよりよく生きるためには必要なことでもあります。今後は情報教育の充実に努め、温かな人間関係を築くことができる教育を推進していきたいと考えています。